

※授業は1回2時限です

学科名 コース名	ビジネス科			授業方法	講義		
科目名	情報と社会	学年	1	時間数	30	単位数	2
担当者	伊藤	科目種別	リベラル アーツ	実務経験のある教員等 による授業	○	必修選択	必修
<b>到達目標</b>							
日本語表記の特徴である漢字かな交じり文への理解を深め、社会で通用する分かりやすく伝わりやすい文章が読み書きできるようになる。							
<b>授業概要</b>							
新聞記者やコラムニストの経験をもつ講師が、新聞の見方や記事の書き方、わかりやすい表現とは何かを解説します。各回、課題に取り組みます。							
回	テーマ	内容					
1	作文「卒業後の自分」を書く	講義のスタートに当たり、学生に卒業後の希望などを作文に書いてもらいます。各人の学習目標を明確にさせるとともに基礎的な文章力を見極めます。					
2	コラムの書き取り	情報社会の現状と学生たちを取り巻くメディア環境を学び、新聞のコラムを書き取ります。印象に残った文節や単語などを調べ、文意や要点を考えます。					
3	新聞の見方	新聞の紙面構成、各面の特徴、新聞記事の書き方の特徴やルールなどを学びます。ニュースも一般の文章も5W1Hの要素が含まれていないと伝わりにくい点を学びます。					
4	随想「木曾路の一灯」の書き取り	漢字かな交じり文による長文の書き取りに挑みます。文章の組み立て、引用、展開の呼吸などを理解します。					
5	訂正記事に学ぶ	誌面に実際に掲載された訂正記事を教材にして、ミスを犯した原因やミスに伴う影響の大きさなどを学びます。ミスを犯さないための心構えや備え、工夫などについても学びます。					
6	新聞記事を書く	新聞記者やリポーターになったつもりで架空の交通事故や火災、催し物を書いてみます。6要素（5W1H）が欠落していないか、を学びます。悪文の例や不要な接続詞の例などを示して、簡潔な文章による伝え方を学びます。					
7	正しい用字用語を	「愛想を振りまく」（正しくは愛嬌を振りまく、または愛想がいい）などを例に、氾濫する多くの誤用例などを学びます。「から」「なります」など近年、特に食事どころなどで使われるようになった言葉についても学びます。					
8	コラムを読む	「かみしもを脱いだ社説」といわれるコラムを読みながら、特徴や文章の硬軟などを学びます。先々の「エッセイを書く」単元や、就職希望先への提出作文の参考になれば、との学びです。5W1Hにもう一つのW（値打ち）とH（ハート）を加える視点も。					
9	観察力を養う	平成5年に発生した北海道南西沖地震による被災地の写真を教材に、何が写っているか、何を読み取るか、背景をどう想像するか、などを学びます。その観察を重ね合わせてできる文章から、自然災害の怖さと、被害から立ち上がる人々の様子を読み取ります。					
10	漢字かな交じり文	日本語表記の特徴である漢字かな交じり文について学びます。読みやすく伝わりやすい表現の大切さを学びます。全文を平仮名で表記した教材を適当な漢字かな交じり文に書き直します。句読点のおきどころを考え、同音異義語にも注意します。					
11	漢字かな交じり文	第10回講座の復習。全文を平仮名で表記した教材を適当な漢字かな交じり文に直します。同音異義語を使い分ける学習を兼ねます。					
12	あふれる外来語	片仮名で表記される外来語の和訳を試みます。和訳ができない単語、片仮名のままの方が意味の伝わってくる単語などを調べます。					
13	情報の識別と評価	新聞紙面の読み比べをします。同じニュースなのに新聞によって扱いが異なる例などを学びます。その背景や理由を考えながら、複数のメディアが伝えるニュースを読み比べます。					
14	テスト	講座で取り上げた内容について成果や習熟度を問います。					
15	情報と社会のまとめ	文柄を磨くためのポイントを学び、情報社会を生きるための視座を考えます。					
<b>テキスト・教材・参考書</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>			
「日本語表現&コミュニケーション」（実教出版） 「記者ハンドブック」（共同通信社） 「最新版外来語・略語辞典」（集英社） 「新聞研究」（日本新聞協会） 「信濃毎日新聞」「市民タイムス」				授業態度、出席状況 試験（60点以上で単位認定）			